

図書館だより

NO. 146 2010年 5月号
(2010年5月1日発行)

はつかいち市民図書館
電話(0829)20-0333
廿日市市下平良 1-11-1

ホームページ <http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>

あいフラザ絵本読みの聞かせボランティア募集

読み聞かせボランティアは、現在7名います。一昨年5月からスタートした出前の読み聞かせを楽しみにしている子どもたちのために、ボランティアとして参加してみませんか？

- 実施日** 奇数月の第2木曜日 11:00～（40分程度）
（5月13日/7月8日/9月9日/11月11日/1月13日/3月10日）
- 場 所** あいフラザ 1階 フレイルーム
- 内 容** フレイルームに遊びに来ている乳幼児と保護者に、
1対1で読み聞かせ。
（フレイルームには、図書館の本を200冊置いてあります）

<今月の展示>

<さくらびあ展示> 『お笑い!』

5月9日（日）にさくらびあで開催される「爆笑 お笑いバトル 2010in はつかいち」にちなんで、「お笑い!」に関する本を展示します。

<中 央 展 示> 『安心・安全のまちづくり』

防災・交通安全・振り込め詐欺などに関連した本の展示を行います。安心・安全のまちづくりについていっしょに考えてみませんか？

<児 童 展 示> 『のりものあつまれ!』

くるま、電車、飛行機、船、自転車など。私たちのまわりにはたくさんの乗り物がありますね。今月は色々な乗り物が登場する絵本を展示しています。

<テーマ 展 示> 『旅にまつわる本』

5月16日は、旅の日です。旅にまつわる本を集めて展示します。

ヤングアダルト新着情報

『嘘つきは恋のはじまり』

メグ・ギャボット／作

代田亜香子／訳 理論社 933/キ

主人公ケイティは17歳。将来はプロの写真家を目指しているけど、みんなにはヒミツ。高校での成績は悪くないし、オシャレにも気がつかって、カレシは学校で一番人気の男子、セス。でもイケメンとキスに弱く、嘘つきな一面があるケイティ。他人だけではなく自分の心にも嘘ばかりついて、いつもほんとうの気持ちをごまかしています。そんな、ケイティのまえに、昔のヒミツをにぎる幼なじみが町にもどってきました。嘘つきという弱点のせいで、どんどん身動きがとれなくなったケイティのとった行動とは？ケイティといっしょに、自分の本心とあらためて向き合ってみませんか？

『1日5分で君は変わる』

佐々木宏／著 国土社 159/サ

現在の自分の生活を変えたい、でもきっかけがつかめない。そんな人にお勧めの一冊です。いきなり大きな変化を望まなくても、人間は1日たった5分からでも変わっていくことができるのです。そのきっかけをつかむ1つの術として本書では教科書にも出てくるような歴史的な人物14人の言葉を取り上げています。1日に1人ずつ、彼らが残した言葉を読み、そこから自分を見直す時間をつくってみませんか。1日5分×14日後、もしかしたらあなたはこれまでとはちょっと違ったものの見方や考え方ができる人間になっているかもしれません。

私のすすめる本

それでも子どもは減っていく

本田和子／著 筑摩書房 2009年

国の少子化対策として打ち出される「保育園の増設」「育児休暇の整備」「育児手当の増額」などの政策は、将来の納税者予備軍であるという観点から、子どもたちの存在を捉えているのではないだろうか？そして、さまざまな少子化対策によっても、産むことを拒み、あるいは少なく産むことを望んでいる女性たちは増え続けていくだろうと著者は述べている。

子ども学の第一人者である著者は、「いま子どもである人」の存在意義をより多様に考えることが必要だと訴えている。現行の少子化対策が多産奨励対策として効果が薄いとしても、「同世代の乏しい」大人社会のなかで育つ「いまの子どもたち」の育ちの環境を考えた配慮のある政策に転換することが少子化対策に繋がるのではないだろうか」と述べている。

今の子どもたちが大人になったとき、本来の目指すべき少子化対策の真価が問われることになるのではないだろうか？

図書館利用者：松尾耀介

< 今月の新着（一般書） >

図書館には1ヶ月に約600冊の新刊が入ります。その一部を紹介します。

『読み解き「般若心経」』 伊藤比呂美／著 朝日新聞出版 183.0/イ

『日本開国』 渡辺惣樹／著 草思社 210.5/ワ

『裁判百年史ものがたり』 夏樹静子／著 文芸春秋 327.0/ナ

『シングル介護』 おちとよこ／著 日本放送出版協会 S369.2/オ

『マキアヴェリ戦術論』 ニッコロ・マキアヴェリ／著 浜田幸策／訳 原書房 391.3/マ

『人物で語る科学入門』 竹内敬人／著 岩波書店 S430.2/タ

『高血圧、糖尿病が気になる人の「減塩」ワザ』 岩崎啓子／著 PHP研究所 493.2/イ

『玄米ごはん』 月森紀子／著 講談社 596.3/ツ

『堆肥とことん活用読本』 農文協／編 農山漁村文化協会 613.4/タ

『一冊でわかる落語ガイド』 秋山真志／監修 成美堂出版 779.1/イ

『日本人の知らない日本語2』 蛇蔵／著 海野凧子／著 メディアファクトリー 810.4/ヘ

『ブラックチェンバー』 大沢在昌／著 角川書店 F/オ

『男の背骨』 山本一力／著 角川春樹事務所 914.6/ヤ

新刊

こどものほん

『百年の家』

絵/ロベルト・インノチェンティ 作/Jパトリック・ルイス
訳/長田弘 講談社 E/I

もう誰も住むことのなくなった1軒の古い家に、新たな家族が暮らし始める。人が家に命を吹き込み、そして家がそこに住む家族を見守る。1900年から2000年の100年という歳月のなかで、人々は喜び悲しみを繰り返しながら一日一日を紡いでいき、その積み重ねを家は静かに見守っている。国際アンデルセン賞画家賞受賞作。

『消えた王子 上・下』

フランス・ホジソン・バーネット作 中村妙子訳
岩波書店 933/ハ

かつてサマヴィアは美しく平和で豊かな国だった。しかし、王の悪政により国は荒廃し、人々が希望を託した勇敢な王子は謎の失踪を遂げる。以後500年内乱の続くこの国を救うため、12歳の少年マルコと足の不自由な少年ラットはマルコの父から秘密組織の重要任務を託され、ヨーロッパ各地を巡る命がけの旅にでる。果たして消えた王子の謎は解明され、サマヴィアに平和は戻るのか？『秘密の花園』を描いたバーネットの知られざる傑作。

『空からきたひつじ』

フレート・ロドリアン作 ヴェルナー・クレムケ絵
たかはしふみこ訳 徳間書店 943/0

動物好きで元気いっぱいの子クリスチーネは、雲から落ちてきたというまっ白なふわふわのひつじに出会います。そのひつじは悲しい顔でひつじ雲を見上げ、「友だちのところに帰りたい」と言います。動物の気持ちになって考え、助けようとがんばる女の子の心温まるお話です。旧東ドイツを代表する作者と画家による名作で、愛らしいさし絵がオールカラーで収録されています。

『モグラの生活』

飯島正広文・写真 福音館書店 489/1

モグラが土の中でどのような生活をしているか知っていますか？動物の写真を撮影しながら暮らしている著者が、実際にモグラを飼い、土の中での生活を知るために観察用のトンネルを作って、餌の食べ方やその行動を紹介しています。また、野生のモグラが子育てをする様子を撮影するため6年かけて巣穴を探しだし、子育てするモグラの様子や赤ちゃんの写真的撮影に成功しています。

『ホントにあるの？ホントにいるの？』

安斎育郎編著 かがわ出版 147/ア

『白鳥のトランペット』(福音館文庫)

E・B・ホワイト作 エドワード・フラシーノ画 福音館書店 933/ホ

『ねえ、どれがいい？』(新版)

ジョン・バーニンガムさく まつかわまゆみやく 評論社 E/ハ

ミニブックトーク

O・ヘンリー 没後100年

今年アメリカの短編作家、O・ヘンリーの没後100年にあたります。O・ヘンリーは1862年9月ノース・カロライナ州グリーンズボロ生まれ、1910年6月にニューヨーク市で亡くなります。

彼は銀行員の時、公金横領罪で告訴され5年の実刑判決が下りますが、実際には模範囚として3年3カ月で受刑期間を終えています。その服役中に、O・ヘンリーのペンネームでそれまでの体験を素材にした短編小説を書き始めます。結果的には、この獄中でのさまざまな囚人たちとの語らいが彼のその後の作品の方向性に重要な役割を果たすこととなります。出所後、本格的な作家活動をニューヨークで開始。物語の題材を得るためマンハッタン一帯を隈なく散策し、丹念な取材と豊かな想像力で誕生した作品の多くには、当時のニューヨークの庶民の悲哀が描かれています。

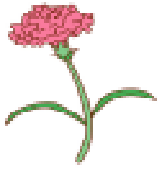
代表作は『最後の葉』です。画家志望の若いジョンシーは肺炎で生きる気力を失くし、窓から見える蔦の葉の最後の葉と自分の命を重ね合わせます。結局最後の葉は散ることはなく、ジョンシーは病气から回復することができますが、最後の葉が散らなかったその訳とは？

『賢者の贈りもの』では、仲の良い夫婦がお互いを思いやるがゆえに自分の一番大切なものを売って相手を喜ばそうとします。お金の価値でははかることのできない、最高の贈りものとはどんなものなのかを問いかけます。

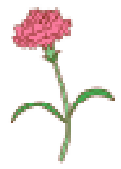
どの作品にも皮肉とユーモアが詰まっており、巧みな構成で読者を魅了します。O・ヘンリーの作品は、日本では多くの人の手によって訳され様々な出版社から出版されています。独特の比喻を交えた文体は、訳者によって微妙に違う日本語に翻訳されています。短編で読みやすいので、同じ作品で訳者による違いを読み比べてみるのも面白いのではないのでしょうか？

『最後のひと葉』 オー＝ヘンリー/有吉玉青・訳 米倉齊加年・絵 偕成社 933/ハ

オー＝ヘンリー作 金原瑞人訳 岩波書店 933/ハ(岩波少年文庫)



図書館で意見箱から



ご意見をお寄せいただきありがとうございます。
いただいたご意見のなかからご紹介します。

ご意見：

『私は、この図書館にときどき父と来ています。とてもしゅるいが多く、はば広く、本をさがせる所がとても気に入っています。しかし、ときどき、自分のさがしている本をみつけられないというときもあります。学校にはない本が読めるところが一番好きなところですよ。これからもどんどんここの本を読みたいと思っています。』

宮内小学校 5年 久保文乃さん

回答：

『いつも図書館をご利用いただきましてありがとうございます。これからもどんどん本を読んでください。図書館窓口は、「貸出し」「返却」「相談」の三つの窓口があります。「相談」の窓口では、利用カードを発行するだけでなく、調べ物の手助けや、お探しの本の場所などを案内しています。ぜひ「相談」の窓口をご利用ください。』

5月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6 休館	7 ◎	8 ☆
9	10 休館	11	12	13	14	15 ■
16	17 休館	18	19	20	21 ◎	22 ☆
23	24 休館	25	26	27	28	29
30	31 休館					

◎ちいさいこのためのおはなし会

【対象】乳幼児

【時間】1回目 11時～

2回目 11時30分～

※整理券を相談窓口で配布します

☆おはなし会

【対象】幼児～小学校低学年

【時間】11時～

■ストーリーテリングのおはなし会

【対象】幼児～

【時間】11時～

